

【要点】②加法・減法

(1) 加法

①同符号の数の和……絶対値の和に共通の符号をつける。

$$\begin{array}{ll} \text{[例]} & (+3)+(+4) & (-2)+(-5) \\ & =+(3+4) & =-(2+5) \\ & =+7 & =-7 \end{array}$$

②異符号の数の和……絶対値の差に、絶対値の大きな方の符号をつける。

$$\begin{array}{l} \text{[例]} & (+2)+(-9) \\ & =-(9-2) \\ & =-7 \end{array}$$

(2) 減法……減法（ひき算）を加法（足し算）に直してから計算する。

その際、引くの記号(-)のすぐ後ろにある()の中の符号を変える。

$$\begin{array}{l} \text{[例]} & (-2)-(-4) \\ & =(-2)+(+4) \\ & =+(4-2) \\ & =+2 \end{array}$$

異符号の数の和

※-4を引くということは、+4を足すと言い換えることができる。

(3) 加法・減法の混合計算

① (+)は(+), (-)は(-)を先に計算する。

$$\begin{array}{l} \text{[例]} & (-3)+(+8)+(-5)+(+1) \\ & =-(3+5)+(8+1) \\ & =(-8)+(+9) \\ & =+(9-8) \\ & =+1 \end{array}$$

② ()をはずしてから、+どうしは+どうし、-どうしは-どうしを計算する。

()のはずし方

$$\begin{array}{lll} \text{※}+()\text{は省略できることを利用して}()\text{をはずす。} & +(+\bigcirc)=+\bigcirc & -(+\bigcirc)=+(-\bigcirc)=-\bigcirc \\ & +(-\bigcirc)=-\bigcirc & -(-\bigcirc)=+(+\bigcirc)=+\bigcirc \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{[例]} & -(-3)+(-6)-(+5)+(+8) \\ & =+3-6-5+8 \\ & =+3+8-6-5 \\ & =+11-11 \\ & =0 \end{array}$$